

研究所年報 巻頭の言葉

和漢医薬学総合研究所は「和漢薬の科学基盤形成拠点」の名称で共同利用・共同研究拠点に認定を受け、2月に日本学術振興会先端学術研究人材養成事業の採択事業として、「異分野の視点から見た和漢薬研究の独創的体系構築」をテーマにシンポジウムを行いました。また、6月には「共同利用・共同研究拠点」認定記念式及び民族薬物研究センター「民族薬物資料館」完成記念式を開催しました。記念式には、磯田文雄文部科学省研究振興局長、坂口志文国立大学附置研究所・センター長会議会長をはじめ関係者約二百名が出席し、盛大に和漢医薬学総合研究所の拠点としての門出を祝いました。さらに、共同利用・共同研究拠点としての使命を遂行するために、学内、地域はもとより、国内外の研究組織等と連携して、和漢薬研究を推進する体制を整備し、以下の様に組織的にも見直しを行いました。

- 1) 資源開発研究部門薬物代謝工学分野ならびに漢方診断学寄附研究部門廃止し、臨床科学研究部門漢方診断工学分野を設置した。
- 2) 共同利用・共同研究を推進するために生薬・方剤エキスの科学プロファイリング及び生薬をはじめとする天然薬物に関する科学的研究を行う特命助教を増員した。
- 3) 研究基盤を整え国内外の研究組織と円滑な連携運営を図るため、外国人枠を振替え生物系とタイアップできる和漢薬の生体内動態解析研究（プロファイリング）及び国際共同研究を行う特命准教授を国際研究部に配置した。
- 4) 世界トップレベルの研究能力を有する人材の育成を目指し、大学全体の施策として、テニユアトラック制をライフサイエンス分野（一部）に導入・実施しており、和漢医薬学総合研究所もこれに参画し、助教を採用した。

このように、共同利用・共同研究拠点の組織・機能の充実を図りつつ、所員が一丸となり和漢医薬学研究の進展を図る所存ですので、今後共、皆様方からの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 23 年 1 月

和漢医薬学総合研究所 所長 門 田 重 利